

## 第6回臨時会(9月3日)

### ■津別まちづくりセンター運営協議会

7月12日に農工商等の関係者、まちづくり活動や地域活動に関わる方々12人の委員で発足し、会長には原田英機氏が選出され、第5次総合計画の「まちづくりセンター構想プロジェクト」に掲げるまちづくりセンターの具体的活動に向けた協議が開始されたところであります。

来年度開設する(仮称)津別町多目的活動センターの利用及び運営等について協議を重ねており、積極的に委員に就任していただいた皆様に心から期待するとともに、議員各位におかれましても「町は舞台、町民が主役」の新たな町づくりに、ご支援ご指導いただきますようお願いいたします。

### ■森林セラピー基地

7月13日と14日の両日、北見市駅前と上里町民の森において森林セラピーンサエティにより、12人の北見工業大学生被験者による基地認証に向けた実証試験が行われたところですが、明春には基地認証されるよう期待するものであります。

### ■船橋ポートジュニア野球クラブと斜網地区選抜チーム

## の交流試合

船橋ポートライオンズクラブと船橋津別青少年交流協会が中心に、野球を通して青少年交流事業を実現しようと7月31日、選手ほか関係者52人が来町し、8月1日、2日の両日にわたり斜網地区12校の選抜選手チームと交流試合を行いました。

津別町野球連盟、斜網12校の中学校指導者の方々、津別町商工会、津別ライオンズクラブをはじめ各団体の協力をいただき、成功裡に終えることができましたことに心より感謝申し上げます。

津別ライオンズクラブ様から、この事業に対しご寄附をいただきましたことに重ねて厚くお礼を申し上げます。

### ■南アルプス市・船橋市との青少年交流事業

町内の児童生徒及び高校生のリーダーなど一行37人が夏休み期間中の8月5日から8月11日までの猛暑の中、2日間のホームステイを含め6泊7日の日程で南アルプス市と船橋市を訪問いたしました。地元の児童生徒との交流会、都会体験、施設見学等を通して両市との友好の輪を広げるとともに、多くの体験と交流の中から貴重な体験をお土産に無事帰町しました。

南アルプス市、船橋市の関係者をはじめ、多くのボランティアの方々に対し感謝申し上げます。

### ■津別霊園無縁有縁の碑開眼法要

8月7日に行われました津別仏教振興会主催による第26回津別霊園盂蘭盆供養会に併せまして、本年改修いたしました無縁有縁の碑にこれまで無縁墓地に埋葬されていた4体を含め、9体分の遺骨を納骨し、津別仏教振興会の協力をいただきながら有縁無縁の碑の開眼法要を行い、併せて無縁仏の供養を行ったところであります。

### ■感染症の発症

特別養護老人ホームいちいの園において、体調不良により津別病院に入院された80歳代の入所者が、8月21日、感染症である結核であることが判明し、直ちに家族により隔離病棟のある旭川市の病院に転院したところであります。症状は軽度と聞いており、

北見保健所の指導は、濃厚接触者である同室の入所者3人、介護職員19人、看護師3人計25人につきましては、血液検査を中心に行診が義務付けとなったところです。また、この発症に伴い、同室の入所者及びその身元引受人の皆様には経過を説明申し上げ、それ以外の入所者と身元引受人の皆様には文書を持ってお知らせしたところであります。

今後とも入所者の健康管理には万全を期していきます。

### ■高齢者の所在不明問題

8月28日付北海道新聞において、「100歳以上で所在が確認できない高齢者」が津別町にもいるとの報道がされたところですが、本町はすでに戸籍の電算化を行い、釧路地方事務局の準則に基づき、100歳以上になると「高齢者消除」の対象者としてリストアップできるシステムを持っており、

これに基づき所在調査を行い、生存の事実が確認できない場合は「高齢者消除」により釧路地方事務局の許可を受けて戸籍を消除することとなります。本町では110歳を超える者が1人いることから、現在、通常業務として「高齢者消除」の作業である所在調査を行っている最中であり、法令等に従い事務を遂行していきます。

### ◎その他報告された事項

■北網地域活性化協議会事業 ■ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展及び被爆証言講話会 ■第40回つべつ夏まつり ■第60回社会を明るくする運動「ふれあい町民のつどい」 ■グレ

## 第7回定例会(9月27日)

### ■北海道社会貢献賞の受賞

高台 星屋好春様(民生委員・児童委員)が永年にわたる地域社会での福祉活動の実践に努められた功績が認められ、北海道社会貢献賞(社会事業関係功労者)を受賞されました。

これまでのご功績とこの度の栄えある受賞に対し、心から敬意と感謝を表します。

### ■つべつふるさとまつり

9月9日、10日の両日、恒例の「ふるさとまつり」が開催されました。今年で19回目を数えたこのまつりは、暴力団とその関係者を排除し、「町民が安心して楽しめるまつり」にしようとして定着していますが、商工会会員、各種団体、サークル、実行委員会直営の店などそれぞれ趣向を凝らした39店が出店していただき、真夏を思わせる好天にも恵まれ、訪れた多くの町民を楽しませてくださいました。

### ◎その他報告された事項

■建設工事等の発注状況 ■農作物の作況状況



# 議会日誌

## 7月

- 16日 議会運営委員会行政視察(斜里町、美幌町)  
 20日 雄武町議員定数調査特別委員会視察  
 28~29日 オホーツク圏活性化期成会夏季要望(東京都)

## 8月

- 21日 国土交通省北海道局廃止反対を訴える緊急総決起集会(網走市)  
 25日 網走地方森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会定期総会(北見市)  
 30日 議会運営委員会

## 9月

- 1日 網走郡下町議会議長・副議長会議(美幌町)  
 3日 第6回津別町議会臨時会  
 3日 第4回全員協議会  
 13日 総務文教常任委員会  
 14日 産業福祉常任委員会  
 21日 産業福祉常任委員会  
 22日 議会運営委員会  
 27~28日 第7回津別町議会定例会  
 28日 決算審査特別委員会  
 30日 議会運営委員会

## 10月

- 4日 第8回津別町議会臨時会  
 14日 議会広報特別委員会

# 意見書

関係行政庁へ  
提出しました

## B型肝炎問題の早期全面解決を求める意見書

平成18年6月最高裁判所は、北海道内のB型肝炎患者の方々、B型肝炎ウイルスに感染した原因が、注射針・筒を連続使用した集団予防接種にあるとして国の損害賠償を求めた裁判において国の責任を認めた。

その後、北海道内の多くのB型肝炎患者の方々、国に対し損害賠償を求め提訴していた裁判において、本年3月札幌地方裁判所は和解勧告を行い、国は勧告を受け入れ協議に応じる方針を決定している。

よって、国においては、次の事項について実現が図られるよう強く要望する。

記

1. B型肝炎訴訟を全面的に解決する方策を早期に示し、一日も早く和解を実現させること。
2. 肝炎患者にとって、経済的負担の心配ない医療費助成制度の整備を進めること。
3. 肝炎患者に対する差別・偏見をなくすため正しい知識の啓発活動を進めること。

### ◆提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣

## 道路の整備に関する意見書

### ◆提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、

# はぐるま

—歯車—

議会の最大の機能は議決権とチェック機能である。過日、道新みずならに掲載された記事で私自身教訓を覚えた要点を記述する。「議員が勉強しないと役所幹部の質も悪くなる」

議会や委員会で質問するのは議員の仕事だ。つまり鋭い質問を通して首長や役所の仕事を監視する役割を担っている。ところが議員が行政の仕事を勉強しないと、首長や幹部があまりの答弁をしても追求できずに終わる。意欲や能力のない議員が増えると役所幹部がおどろきの答弁準備で足りる。それが研鑽を怠り質が低下する事になる。このコラムを見てあらためて議員の使命と役割を再認識させられた。もって行政と議会は立場が違い、双方ともに切磋琢磨の緊張関係が肝要で、行政の専行や独善があれば抑止力が必要となる。我が町の議会も議員個々の資質を生かし、議案が町民に役に立つかどうかの観点で大いに議論して、さらなる議会の前進を目指すべく肝に銘じているところである。

(谷川)